



日光山
諸所
案内
索引
草全

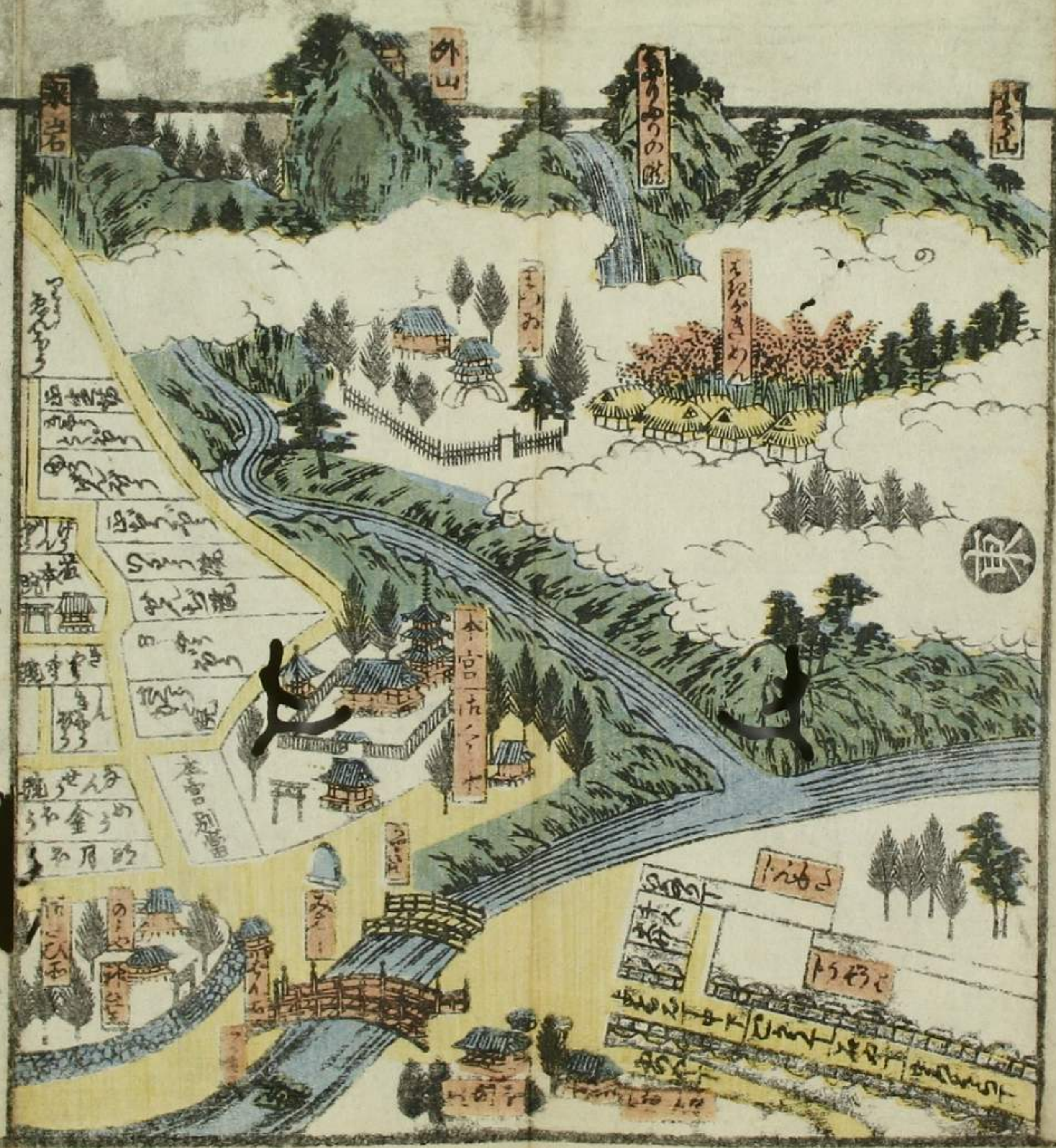
ル 4
4885



目光山諸所案内手引草

柳日光山より下野國都賀郡なる神護寺を元
 年跡道上人開山あり大已遺言勸請して是を
 日光之社と稱し則新宮御尾奉宮是より
 其後弘法大師慈覺大師登止ししるひ
 緒堂社よりしり建立者より又慈覺大師中兵
 衛山元和の以済宮所鑑すしして其結核
 傳ふしと云ふ跡紫花乃所止となり後人
 くんしゆと云ふ所あり巨樹あり事 日光
 名跡傳といふ書にのち記しる所あり是より
 畧し唯系浦乃明路のて城

何れも 志す

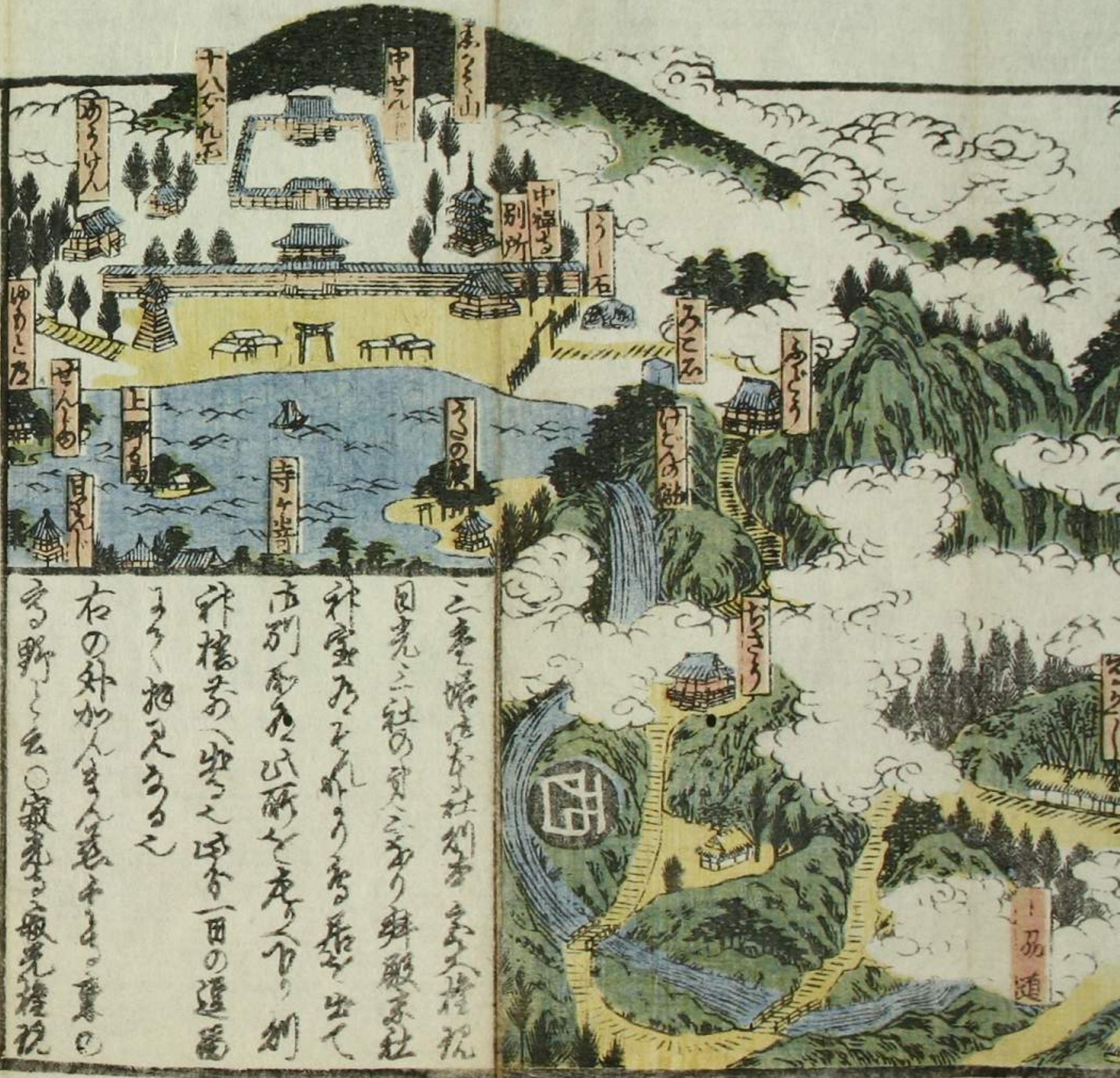


日光山入口の町を松系町と云ふに在りて其田下新に本町
 右ふたより二町是より橋本町に於て次は中津新町上津新町
 是より日光山の平なる出る光りの方森の内八里の宮ありふ
 足目園の明林の社あり下は下宮の石碑ありふたより
 新宮らんまきありとも惣集めんといふは日光の寺なり
 といふ所の新林ありて通用を極ありふたより新林の地有
 かりはしといふは川のありて中津下川水やと云はれりといふこの
 橋をこりて右ふたよりといふは日光の八里ありの御院あり
 是より一里あり藤本に於ては日光の石碑ありて是より
 本町より左へは日光の石碑ありて是より日光の石碑ありて

日光山諸所案内手引草の序文部分。この巻は日光山の諸所案内を記す。日光山の入口の町を松系町と云ふに在りて其田下新に本町右ふたより二町是より橋本町に於て次は中津新町上津新町是より日光山の平なる出る光りの方森の内八里の宮ありふ足目園の明林の社あり下は下宮の石碑ありふたより新宮らんまきありとも惣集めんといふは日光の寺なりといふ所の新林ありて通用を極ありふたより新林の地有かりはしといふは川のありて中津下川水やと云はれりといふこの橋をこりて右ふたよりといふは日光の八里ありの御院あり是より一里あり藤本に於ては日光の石碑ありて是より本町より左へは日光の石碑ありて是より日光の石碑ありて



日光三社の内三つあり拜殿家社
之を塔寺と社別々を大塔院



○乃念佛堂より行念仏の札あり。○荒波不動堂見
 〆鵜渡水より入良蓮花石所といふ外所あり
 ○日光より少一行。○大日堂後系あり。○清源村
 中々下 女人堂あり。○水使む。○石返。○是
 女人禁所といふ不動堂より不動堂あり。○中
 別所捕籠落の中程あり。○此中程大持杖
 日光之社の本末あり。末社あり。○此社の

觀音坂東十八人の札あり。湖水東西三里南也二里
 夏の石舟ふ入岩。系清石と世記の系より西二里
 温泉あり。夏の石舟入湯あり。○あり。○此山
 名山湖水古路教達。○此山後入有流
 乃法付想。○此山の石舟。○此山後入有流
 〆花を不。系清石より。○此山後入有流
 右一巻。名山の石舟より。○此山後入有流
 寸巻の案内あり。○此山後入有流

寛政二庚戌歳二月元板
 文政五壬午歳十月再板
 天保十一庚子歳二月改板

樂々書

日光石屋町

大嶋久兵衛藏板

御免

大嶋久兵衛藏板



辛酉卯
安城辰
五女
山月
川